



# ロンドンITS世界会議 報告

2006年11月

# 会議の概要



- ・ 第13回目を迎えるITS世界会議は、“ITS: Delivering Transport Excellence” (より優れた交通の実現を目指して)と題してロンドンで開催
- ・ 各国のITSとも事業化・普及のフェーズが到来し、事業化や技術の本質に迫る活発な議論が行われた

**開催日時:** 2006年10月8日(日) ~ 12日(木)

**開催場所:** イギリス ロンドン Custom House for ExCeL

**参加者数:** 約8,000人 (75カ国)

**展示企業数:** 270団体・企業 (うち日本から18団体・企業)

**セッション数:** 238セッション

(出典: 第13回ITS世界会議公式webサイト)



図 展示会場全景



図 開会式の様子

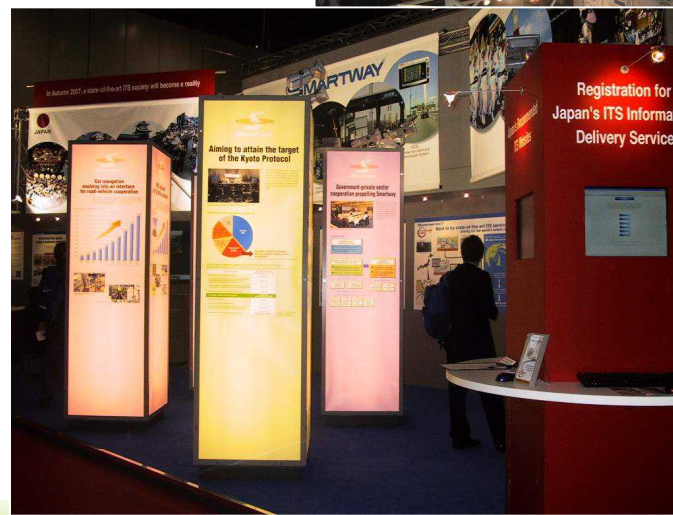


図 道路局ブース

## 【米国の状況】

- ・ 米国では交差点衝突回避システムなどの路車協調システムに関するVII (Vehicle Infrastructure Integration) プロジェクトが進行中
- ・ 2007年から実施されるフィールドテストの結果を踏まえ、2008年中には実現可能性を判断
- ・ 車載器は2010年頃から開発をはじめ、2015年には全ての新車への搭載を計画

## VIIの主なアプリケーション

### 【安全系アプリケーション】

- ・ カーブ進入速度警告
- ・ 交差点衝突回避

### 【その他のアプリケーション】

- ・ 自動料金収受 (有料道路、駐車場、ガソリンスタンド等)
- ・ 旅行者情報提供
- ・ 天候情報提供 (プローブ情報活用)
- ・ 信号最適化制御
- ・ 信号無視警告

## VIIのスケジュール

	2006年	2007年	2008年	2009年以降
アプリケーションの改良	→			
室内実験とシミュレーション	→			
POC テスト (デトロイト等)	→			
プロトタイプを用いたフィールドテスト		→		
本格開発				→

## 【欧州の状況】

- ・ 欧州では官民共同でCVIS (Cooperative Vehicle - Infrastructure Systems) の研究開発 (予算: 4,000万ユーロ) を2006年2月から開始し、2010年1月まで実施する予定
- ・ CVIS開発のキーは、通信・ネットワーク、アプリケーション管理、地図・ポジショニング、データモデリング (収集・蓄積・提供) であり、日本が力を入れている基盤技術と同様
- ・ CVISは安全を主眼としているものの、安全以外のサービスもあり、ITS全体の基盤として推進

## CVISの推進するプロジェクト

### 共通指向サブプロジェクト

- ・ IP通信マネジメント (IP Management: IPMAN)
- ・ コアアーキテクチャグループ (Core Architecture Group: CAG)
- ・ 開発実装 (Deployment Enablers: DEPN)

### 技術指向サブプロジェクト

- ・ 通信・ネットワーク (Communications and networking: COMM)
- ・ アプリケーション管理 (Framework for Open Application Management: FOAM)
- ・ 地図・ポジショニング (Positioning Mapping and Location Referencing: POMA)

### アプリケーション指向サブプロジェクト

- ・ 都市圏協調アプリ (Urban cooperative system applications: CURB)
- ・ 都市間協調アプリ (Interurban cooperative system applications: CINT)
- ・ 貨物輸送アプリ (Cooperative Fleet and Freight applications: CF&F)
- ・ モニタリングアプリ (Cooperative Monitoring: COMO)

## CVIS実験実施国

